

3. 計画条件の整理

3-1. 対象地区のまちづくりの概要（当初計画）

(1) まちづくりの方向性及び要素

対象地区では、平成 23 年 3 月策定され、その後、平成 25 年 3 月に見直されたアワセゴルフ場地区総合整備計画において、地区の広域的な位置づけがされ、その中で「まちづくりの方向性」及び「まちづくりの要素」が次のように定められている。

<p>まちづくりの方向性</p>	<p>< 沖縄県中部圏域における広域交流拠点の形成 ></p> <p>広域的な視点から周辺市街地や隣接する計画区域等の有する土地利用・交通・排水等の諸計画との調和を図りつつ、<u>沖縄県中部圏域における多様な拠点となる地域</u>の形成を目指す。</p> <p>< 北中城村の新たな顔となる拠点の形成 ></p> <p>本村における今後のまちづくりの展開に寄与すべく、<u>地域の持つ環境・風土・文化等との調和のとれた新たな顔となる多様な交流拠点</u>を目指す</p>															
<p>まちづくりの要素</p>	<p>「広域交流拠点」「村の新たな顔となる拠点」の形成のため、まちづくりに必要な要素を以下のとおり整理する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>《4つの理念》</th> <th>《キーワード》</th> <th>《必要な要素》</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境を創造する交流拠点 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境の保全・再生 ● 地域特性を活かす ● 良好な景観の形成 ● 道路環境の整備 ● 公共交通の利用 ● 地球環境への配慮 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 公園・緑地の整備 ● 緑の保全と緑化の推進 ● 眺望・オーシャンビュー ● 地域の歴史、文化、産物 ● 環境共生・省エネ ● 道路網、植栽、浸透舗装 ● 公共交通（バス、タクシー等） ● 景観配慮指針 </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 健康を増進する交流拠点 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 健やかで文化的な生活 ● 安全・安心のコミュニティ ● 健康スポーツの推進 ● 長寿、子育て等の福祉の充実 ● 食の安全 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便・防災、防犯 ● 良好な住環境 ● バリアフリー化 ● 医療、福祉施設 ● 健康増進・スポーツ施設 ● 子育て支援・休息・癒し ● 農産品等の直売 </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光を振興する交流拠点 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● リゾーツジョブの拠点 ● 沖縄文化とのふれあいの場 ● 滞在型観光の推進 ● スポーツミュージアム ● 魅力ある空間の創造 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 買い物・沖縄土産 ● 食事、沖縄料理・宴会 ● 地産地消・ミュージアム ● 映画・音楽・踊り ● リゾートホテル ● リゾートマンション ● セカンドハウス ● スポーツ交流 </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全安心を確保する地域防災拠点 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 避難路の確保 ● 緊急輸送ネットワークの確保 ● オープンスペースの確保 ● 避難場所の確保 ● 耐震性能の確保 ● 備蓄品・資機材の確保 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全な交通環境の整備 ● 公園・緑地の整備 ● 避難施設の整備 ● 災害の危険性の低い場所 ● 建物の耐震化 ● 案内表示（看板等） ● 防災マップ・ハザードマップ ● 情報伝達、連絡系統の整備 ● 防災倉庫の整備及び点検 ● 防災訓練 </td> </tr> </tbody> </table>	《4つの理念》	《キーワード》	《必要な要素》	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境を創造する交流拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境の保全・再生 ● 地域特性を活かす ● 良好な景観の形成 ● 道路環境の整備 ● 公共交通の利用 ● 地球環境への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園・緑地の整備 ● 緑の保全と緑化の推進 ● 眺望・オーシャンビュー ● 地域の歴史、文化、産物 ● 環境共生・省エネ ● 道路網、植栽、浸透舗装 ● 公共交通（バス、タクシー等） ● 景観配慮指針 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康を増進する交流拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健やかで文化的な生活 ● 安全・安心のコミュニティ ● 健康スポーツの推進 ● 長寿、子育て等の福祉の充実 ● 食の安全 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便・防災、防犯 ● 良好な住環境 ● バリアフリー化 ● 医療、福祉施設 ● 健康増進・スポーツ施設 ● 子育て支援・休息・癒し ● 農産品等の直売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光を振興する交流拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● リゾーツジョブの拠点 ● 沖縄文化とのふれあいの場 ● 滞在型観光の推進 ● スポーツミュージアム ● 魅力ある空間の創造 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物・沖縄土産 ● 食事、沖縄料理・宴会 ● 地産地消・ミュージアム ● 映画・音楽・踊り ● リゾートホテル ● リゾートマンション ● セカンドハウス ● スポーツ交流 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全安心を確保する地域防災拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難路の確保 ● 緊急輸送ネットワークの確保 ● オープンスペースの確保 ● 避難場所の確保 ● 耐震性能の確保 ● 備蓄品・資機材の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全な交通環境の整備 ● 公園・緑地の整備 ● 避難施設の整備 ● 災害の危険性の低い場所 ● 建物の耐震化 ● 案内表示（看板等） ● 防災マップ・ハザードマップ ● 情報伝達、連絡系統の整備 ● 防災倉庫の整備及び点検 ● 防災訓練
《4つの理念》	《キーワード》	《必要な要素》														
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境を創造する交流拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境の保全・再生 ● 地域特性を活かす ● 良好な景観の形成 ● 道路環境の整備 ● 公共交通の利用 ● 地球環境への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園・緑地の整備 ● 緑の保全と緑化の推進 ● 眺望・オーシャンビュー ● 地域の歴史、文化、産物 ● 環境共生・省エネ ● 道路網、植栽、浸透舗装 ● 公共交通（バス、タクシー等） ● 景観配慮指針 														
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康を増進する交流拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健やかで文化的な生活 ● 安全・安心のコミュニティ ● 健康スポーツの推進 ● 長寿、子育て等の福祉の充実 ● 食の安全 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便・防災、防犯 ● 良好な住環境 ● バリアフリー化 ● 医療、福祉施設 ● 健康増進・スポーツ施設 ● 子育て支援・休息・癒し ● 農産品等の直売 														
<ul style="list-style-type: none"> ● 観光を振興する交流拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● リゾーツジョブの拠点 ● 沖縄文化とのふれあいの場 ● 滞在型観光の推進 ● スポーツミュージアム ● 魅力ある空間の創造 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物・沖縄土産 ● 食事、沖縄料理・宴会 ● 地産地消・ミュージアム ● 映画・音楽・踊り ● リゾートホテル ● リゾートマンション ● セカンドハウス ● スポーツ交流 														
<ul style="list-style-type: none"> ● 安全安心を確保する地域防災拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難路の確保 ● 緊急輸送ネットワークの確保 ● オープンスペースの確保 ● 避難場所の確保 ● 耐震性能の確保 ● 備蓄品・資機材の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全な交通環境の整備 ● 公園・緑地の整備 ● 避難施設の整備 ● 災害の危険性の低い場所 ● 建物の耐震化 ● 案内表示（看板等） ● 防災マップ・ハザードマップ ● 情報伝達、連絡系統の整備 ● 防災倉庫の整備及び点検 ● 防災訓練 														

資料：アワセゴルフ場地区総合整備計画（平成 25 年 3 月）

(2) 土地利用計画

対象地区では土地区画整理事業の実施に向けて準備が進められており、土地利用計画及び計画人口は、次のように計画されている。



資料 : アワセゴルフ場地区総合整備計画 (平成 25 年 3 月)

(3) 景観形成

対象地区では、平成 25 年 3 月に見直されたアワセゴルフ場地区総合整備計画において、景観形成の基本的な方向性として「緑と眺望を活かした景観の誘導」が掲げられており、本村の景観の特徴を考慮し、調査対象地区の地域特性を活かした景観形成に住民とともに取り組んでいくものとしている。

〈表 本村の景観の特徴〉

内容
<ul style="list-style-type: none">・起伏に富んだ地形や恵まれた自然環境・豊富な歴史的資源・落ち着きのあるまとまった集落・周辺市町村を結ぶ幹線道路等

※北中城村都市計画マスタープランより抜粋

〈図 景観形成イメージ〉

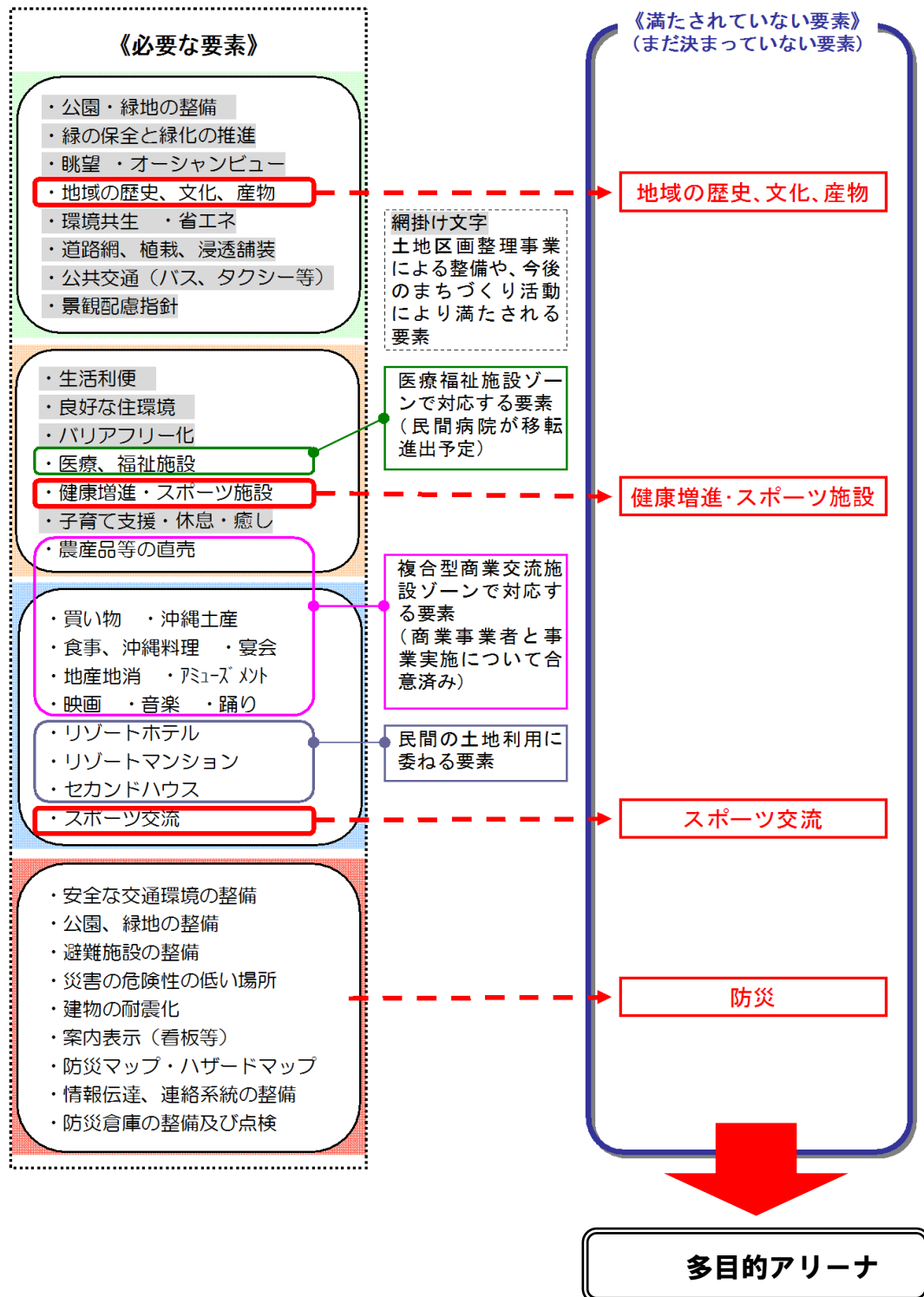


資料：アワセゴルフ場地区総合整備計画（平成 25 年 3 月）

(4) まちづくりの要素の実現性

対象地区においては、土地区画整理事業によるまちづくりに向けた準備に合わせ、「まちづくりに必要な要素」の実現性（満たされるものと満たされないもの）も、明らかになっている。それらを整理すると次のとおりであり、これらを満たす施設として、多目的アリーナが位置づけられた。

【アワセゴルフ場地区の「まちづくりに必要な要素」の実現性の整理】



3-2. 当初計画策定以降のまちづくりの動向

(1) ① 沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）

策定	沖縄県 平成24年5月策定(平成29年5月改訂)
計画期間	平成24年～平成33年(10年間)
基本目標	「時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな『美ら島』おきなわ」を実現することを目標とします。
将来像	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然を愛し伝統文化を大切にする心を「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」へ 2. 人と人との絆を大事にする心を「心豊かで、安全・安心に暮らせる島」へ 3. 強くしなやかな経済や豊かさを求める心を「希望と活力にあふれる豊かな島」へ 4. 世界との交流を通じて平和を希求する心を「世界に開かれた交流と共生の島」へ 5. 希望と夢のあふれる人材を育む心を「多様な能力を発揮し、未来を拓く島」へ
駐留軍用地跡地利用	<p>駐留軍用地跡地の有効利用の推進</p> <p>【基本施策の展開方向】</p> <p>駐留軍用地跡地利用については、周辺市街地と連携しつつ、良好な生活環境の確保や新たな産業の振興、交通体系の整備、緑化の推進など魅力ある都市空間の形成を図るとともに、有効かつ適切な利用を推進し、県内各圏域の多様な機能との相互の連携により、沖縄県の均衡ある発展につなげる。</p> <p>【施策展開】</p> <p>●駐留軍用地跡地の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的見地から大規模な公共公益施設等の整備を含む市街地の計画的な開発整備を行う必要がある ・沖縄県の自立的な発展及び潤いのある豊かな生活環境の創造の拠点等としての整備に取り組む ・周辺密集市街地と駐留軍用地跡地の一体的な整備や跡地整備に伴い必要となる既成市街地内への関連道路等の整備を行う ・世界に誇れるような沖縄らしい風景づくりや新たな風景の創出 ・県民や観光客などすべての人に優しいユニバーサルデザインの視点による新たな都市空間の形成を図る ・環境に配慮した整備によって、地球温暖化問題にも貢献できるよう持続可能な開発を行う <p>●跡地における産業振興及び国際交流・貢献拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐留軍用地跡地において、リゾートコンベンション関連産業や臨空・臨港型産業、文化産業など、強くしなやかな自立型経済の構築の原動力となる産業の集積と育成を図る。 ・アジア・太平洋地域の平和と持続的発展への貢献を目指し、学術、文化、平和、人材育成等の幅広い分野における国際交流や貢献活動の拠点形成を図る。

【個性豊かで魅力あふれる基幹都市圏の形成】

●中部都市圏の機能高度化

- ・市街地整備や街路、公園、広場などの公共施設の整備により、街なかでのにぎわい空間の創出を図るとともに、教育、医療・福祉、商業、文化などの施設について、中心市街地等への再配置や充実等を促進し、居住環境の整備・充実を推進。
- ・駐留軍用地跡地の土地区画整理事業や、都市近郊地域での環境負荷の小さい秩序ある都市的土地利用に向けた取組を促進し、住環境の整備を図る。

●環境共生型社会の構築

- ・エネルギーの使用に伴う環境負荷の低減に向け、太陽光発電等の再生可能エネルギーの普及や天然ガスの活用を促進

【圏域の特色を生かした産業の振興】

●観光リゾート産業の振興

- ・東海岸地域では、中城湾港泡瀬地区において、環境保全に十分配慮した東部海浜開発事業を推進することにより、海洋レクリエーション機能の整備及びスポーツコンベンション拠点の形成を図る。

- ・中城湾港マリンタウン地区に建設を予定している大型MICE施設については、着実に整備を進めるとともに、地域との連携による効果的な施設運営を行う。
- ・沖縄本島東海岸における観光地形成を強化し、宿泊施設、商業施設等の立地促進、交通アクセスの改善等に取り組む。
- ・大型国際見本市・展示会をはじめとする各種MICEの地元自治体と連携した誘致体制を強化するとともに、地元事業者等によるユニークベニュー開発などMICE関連ビジネスの振興に取り組む。

- ・本圏域に集積するスポーツ施設の拡充を促進するとともに、プロスポーツキャンプ等の受入れやおきなわマラソンなど各種スポーツイベント開催をはじめとするスポーツツーリズムを推進する。

- ・スポーツ医・科学分野との連携など、新たな展開の促進も図りつつ、スポーツアイランド沖縄を形成する拠点としての整備を図る。

●駐留軍用地跡地利用の推進

- ・アワセゴルフ場の跡地については、土地区画整理事業を進めるとともに、環境と防災に配慮したまちづくりを図ります。

② 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）

策定	沖縄県 令和4年5月策定
計画期間	令和4年～令和13年(10年間)
基本目標	県民一人ひとりをはじめとする社会全体での参画により、社会・経済・環境の三つの側面が調和した「持続可能な沖縄の発展」と「誰一人取り残さない社会」を目指します。
将来像	<ol style="list-style-type: none"> 1. 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にす島を目指して 2. 心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して 3. 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して 4. 世界に開かれた交流と共生の島を目指して 5. 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して
駐留軍用地跡地利用	<p>駐留軍用地跡地の有効利用の推進</p> <p>駐留軍用地跡地の有効利用と県土構造の再編により、世界に誇れる沖縄らしい風景の再生や景観の創出、新たな都市空間の形成、平和・共生を理念とし、環境に配慮した持続可能な沖縄の発展を目指す。</p> <p>このため、駐留軍用地跡地の特性を生かした効果的な跡地利用の推進及び早期着手に向けた取組を推進する。</p> <p>駐留軍用地跡地の特性を生かした効果的な跡地利用の推進</p> <p>●広域的かつ総合的なビジョンを踏まえた駐留軍用地跡地利用の推進</p> <p>広域的かつ総合的なビジョンの下、県土構造の再編につながる戦略的な跡地利用を推進する。また、跡地利用の推進については、国、県、関係市町村の連携が不可欠であることから、関係機関が連携し、計画的に跡地利用を進めていくため、駐留軍用地跡地利用推進協議会などにおいて、国及び関係市町村と跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する施策等について必要な協議を行う。</p>
中部圏域	<p>歴史文化の継承・発展及び観光振興</p> <p>●異文化が融合する圏域の特色を生かした観光振興</p> <p>有形・無形の多様な文化資源を生かした体験・滞在型観光など地域資源を活用した本圏域特有の観光スタイルを創出するとともに、良好な景観の形成、環境保全活動と経済活動が共存するルールづくり、魅力ある風景づくり等を推進し、豊かで美しい観光・都市空間の創出を図る。また、国際色豊かな独特のチャンプルー文化が根付いた沖縄市を中心として、沖縄全島エイサーまつり等の音楽・芸能を活用した観光・レクリエーション拠点の形成を促進する。沖縄こどもの国については、広域的な児童・青少年の健全育成拠点及び観光拠点としての活用を促進する。</p> <p>●スポーツコンベンション地域の形成</p> <p>本圏域に集積するスポーツ施設の拡充を促進するとともに、プロスポーツキャンプ等の受入れやおきなわマラソンなど各種スポーツイベント開催をはじめとするスポーツツーリズムを推進する。特に、FIBAバスケットワールドカップ2023等の国際大会の開催など、沖縄アリーナを核とした「スポーツアイランド沖縄」の形成に向けた取組を推進する。</p>

また、東部海浜開発地区「潮乃森」など、新たなスポーツコンベンション拠点を有するビーチフロント観光地を形成するとともに、沖縄県総合運動公園、吉の浦公園等の総合スポーツ施設等を生かし、プロスポーツチームの合宿や、学生及び社会人におけるクラブ活動の誘致など、長期滞在型の多様なスポーツツーリズムを推進する。

持続可能な基幹都市圏の形成

●まちづくりの推進

自然環境に配慮した効率的・効果的な都市機能の再編・整備の観点から、関係自治体等との連携の下、広域的な調整等を進めつつ、適切な土地利用を促進する。加えて、戦後、無秩序に過密化が進んだ市街地においては、市街地の再編や再開発を推進する。

東海岸地域においては、保全と開発の両立を図りながら、良好な居住環境とともに歴史・自然資源と産業・観光振興が調和する土地利用を図る。特に、都会の喧騒から離れ、豊かな自然環境と近接するゆとりある地域特性や、沖縄こどもの国等が立地する強みを生かし、子育てしやすい住環境を形成する。

(2) 那覇広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」

策定 沖縄県 令和4年11月変更

3. 都市づくりについて

3) 基本方針

将来像5：連携と交流が盛んな活気あふれる都市圏

駐留軍用地跡地においては、教育、医療、情報等高次都市機能の導入や南北・東西方向の幹線道路の整備及び鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入、MaaS等のシステムを活用したシームレスな交通体系の構築等によって、個性豊かで多様な都市拠点が形成されています。これにより広域的な連携と交流促進による“集積の利点”と“選択の多様性”の享受が可能となることから、活気あふれる中南部一体の広域連携都市圏に生まれ変わりつつあります。



駐留軍用地跡地の商業地（イオンモールライカム）

将来像8：観光・MICE・ショッピングで魅力ある都市圏

個性豊かな琉球の歴史文化と自然の多様性を有する本区域は、空港や港などの交通施設が隣接する地の利や、コンベンション機能、コースタル・リゾート機能、都市型リゾート機能等の集積・拡充の効果により、MICE、海洋レクリエーション、スポーツツーリズム、ヘルスツーリズム、ショッピング等、観光メニューの多様化が進んでいることから、観光収入と環境保持のバランスがとれた持続可能な観光産業が形成されています。

また、首里城公園を中心とした古都首里の自然や風土を満喫できる空間や、那覇港周辺のウォーターフロントなど、各地域において魅力ある景観が形成されており、世界に誇れる「沖縄観光ブランド」の形成に寄与しています。

世界から選ばれる持続可能な観光地形成の実現に向けて取り組んでいきます。

4) 将来都市構造

- ・ 東海岸地域においては、良好な住環境の形成、歴史・自然資源と産業・観光振興が調和する土地利用を図るとともに、賑わいの連鎖と魅力ある地域づくりを通じた活性化を目指します。南部地域においては、那覇空港からのアクセス向上に伴う発展と成長可能性を踏まえ、新たな物流拠点や観光拠点の形成、商業機能の集積を図るとともに、戦跡として唯一の国定公園である沖縄戦跡国定公園を中心に、世界の恒久平和の構築に寄与する平和発信地域を形成します。そして、各地域が役割分担をし、自然資源や歴史資源等の保全を図り、観光振興や産業振興等に資する土地利用を広域的かつ計画的に展開していくことが重要といえます。
- ・ さらに今後の中南部都市圏においては、嘉手納基地より南の駐留軍用地の大規模返還を機に、那覇市と沖縄市を中心とした長大な都市圏軸が形成されていくと予想されます。

- そのため、この軸状に集積する現在の社会資本の蓄積を有効活用し、広域交通拠点の拡張整備を推進するとともに、普天間飛行場をはじめとした駐留軍用地の返還跡地に新たな都市機能を配置するなど都市機能の偏在を是正しつつ、軸状都市圏構造のさらなる強化を図り、中南部都市圏の一体性を高めていくことが重要と考えられます。また、優良農地が広がる糸満市、八重瀬町、南風原町は、農林業と調和する田園空間を保全し、与那原町、西原町、中城村及び北中城村は、大型MICE施設及びそれに関連する機能を配置するとともに豊かな骨格の緑を保全しつつ観光資源としての活用を目指した自然環境と共生する空間の形成を促進するものとします。
- そして、都市圏軸と東海岸の交流連携軸を中心として、にぎわいのある商業地、活気あふれる工業地や閑静な住宅地、風格のある都市景観及び潤いをもたらす都市環境など多様性に富み、都市の品格を兼ね備えた魅力的な広域都市圏を創り上げることとします。

共通理念と将来像の実現に向けた基本的な考え方（概要）

■沖縄県の基本理念と目指すべき5つの将来像

“時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支えあう平和で豊かな「美ら島」おきなわ”				
1) 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切に作る島	2) 心豊かで、安全・安心に暮らせる島	3) 希望と活力にあふれる豊かな島	4) 世界に開かれた交流と共生の島	5) 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

■将来像の実現に向けた基本的な考え

自然、歴史、伝統、文化などの固有の特性を生かした 個性豊かで活力ある地域づくり	主体性・自立性を基軸とする地域づくり	多様な主体間の連携と交流、協働により安心して住み続けることができる地域づくり
---	--------------------	--

■共通課題

<p>【県レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を生かした個性豊かで活力ある都市づくり ・産業を育む都市基盤・情報基盤づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加を促す仕組みづくり ・地域を支える人材の育成 ・アジア・太平洋地域との交流拠点国際貢献拠地の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な役割・機能分担をした都市づくり ・災害に強く、人にやさしい、安全で安心な都市づくり
<p>【圏域レベル】</p> <p>都市構造・土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い歴史に培われた伝統や文化を継承する既成市街地の活力向上 ・アジアのダイナミズムを取り込む臨空・臨海都市の形成 <p>都市交通・都市環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性あふれる自然環境や品格のある都市景観の保全・創出・活用 ・既存の社会資本の適切な維持・管理と有効利用 	<p>都市構造・土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市経営効率化を図るための市街地拡散の抑制 <p>都市交通・都市環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐留軍用地跡地の有効利用の推進 <p>都市計画の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民や民間企業、NPOとの連携協力体制の構築 ・社会資本の官民連携による維持管理・有効活用 	<p>都市構造・土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い市街地の形成 ・都市機能の偏在を解消する都市構造の再編 ・地域連携や地域づくりが促進される社会基盤整備 ・駐留軍用地跡地整備と既成市街地環境改善の一体的推進 <p>都市交通・都市環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路網の体系的整備と公共交通機関への転換促進 ・シームレスな交通体系の整備

■共通目標

○地域の自然・歴史・文化を活かした、個性豊かで活力ある都市 「我した島沖縄の」	○地域自らが考えつくる、快適で潤いのある都市 「特色ある」	○都市機能の有機的な連携と交流による安全・安心な都市 「ゆいまーるのまちづくり」
---	---	--

■共通理念

我した島沖縄の特色あるゆいまーるのまちづくり

(3) 北中城村第4次総合計画

計画名	基本構想・前期基本計画
策定	北中城村 平成27年12月

【地域の自立と活力あるまちづくり】
アワセ地区の広域交流拠点の整備により、交流人口の増加が期待されるとともに、中城湾港新港地区の背後地にある立地を生かした新規産業等の誘致・育成も求められます。

【まちづくりの目標】全村植物“公苑づくり”
北中城村には、中城城跡や御嶽などを抱く丘陵地を中心に多くの緑地が存在し、都市化が進む沖縄本島中南部における貴重な自然環境として位置づけられます。
よって、適正な土地利用のもとで、これら自然環境の保全を図り、市街地や集落における、潤いのある住環境を形成するとともに、アワセ地区における広域交流拠点の形成、公共交通対策、廃棄物対策、環境衛生をすすめ、みどりあふれる全村植物“公苑づくり”をめざします。

■秩序ある土地利用と村の発展に資する拠点形成
中南部の骨格的な緑地の保全や市街地形成地域の拡充など住民の理解を得ながら適正な土地利用誘導を図るとともに、アワセ地区における広域交流拠点・防災拠点の形成をすすめます。

【土地利用構想】市街地形成地域
アワセ地区については、北中城村の新たな顔として、住宅地や大規模商業施設、医療施設などを有する広域交流拠点・防災拠点の形成をめざします。

【基本計画】
(1)秩序ある土地利用
⑧ アワセ地区周辺の既成市街地については、老朽化住宅や細街路の解消、浸水被害に対応した水路の整備などを含めた再開発について検討します。
(2) アワセ地区における広域交流拠点の形成
① 「環境」、「健康」、「観光」、「防災」の4つの将来像に基づき、本村の発展に資する広域交流拠点の形成を図ります。
② 広域交流拠点の核となる観光・文化・商業施設などの導入を図ります。

計画名	後期基本計画
策定	北中城村 令和2年3月

【地域の自立と活力あるまちづくり】

ライカム地区の広域交流拠点の整備により、交流人口の増加が期待されるとともに、中城湾港新港地区の背後地にある立地を活かした新規産業等の誘致・育成も求められます。

【まちづくりの目標】全村植物“公苑づくり”

本村には、中城城跡や御嶽などを抱く丘陵地を中心に多くの緑地が存在し、都市化が進む沖縄本島中南部における貴重な自然環境として位置づけられます。

よって、適正な土地利用のもとで、これら自然環境の保全を図り、市街地や集落における、潤いのある住環境を形成するとともに、ライカム地区における広域交流拠点の形成、公共交通対策、廃棄物対策、環境衛生を進め、みどりあふれる全村植物“公苑づくり”をめざします。

■秩序ある土地利用と村の発展に資する拠点形成

中南部の骨格的な緑地の保全や市街地形成地域の拡充など住民の理解を得ながら適正な土地利用誘導を図るとともに、ライカム地区における広域交流拠点・防災拠点の形成を進めます。

【土地利用構想】スポーツ・レクリエーション地域

スポーツ・レクリエーション地域は、沖縄こどもの国周辺（拡張計画地含む）、沖縄総合運動公園周辺、しおさい公苑およびライカム地区の一部のエリアを指し、本村のスポーツ・レクリエーション等の核として、村民や周辺都市住民の憩いの場としての機能維持・向上を推進します。

【土地利用構想】活用検討地域

活用検討地域は、東海岸一帯や大城地区、荻道地区、駐留軍用跡地（ロウワープラザ住宅地区）、イオンモール沖縄ライカム東側隣接エリア等を指し、村の活性化や魅力向上に寄与する土地利用を検討し、その実現に向けた取り組みを推進します。

【基本計画】

(1)秩序ある土地利用

- ⑦ ライカム地区周辺の既成市街地については、老朽化住宅や細街路の解消、浸水被害に対応した水路の整備などを含めた再開発について検討します。

(2)ライカム地区における広域交流拠点の形成

- ① 「環境」、「健康」、「観光」、「防災」の4つの将来像に基づき、本村の発展に資する広域交流拠点の形成を図ります。
- ② 広域交流拠点の核となる観光・文化・商業施設などの導入を図ります。

注)「アワセ地区」については、公募により令和元年9月に「ライカム地区」に名称を変更

(4) 北中城村都市計画マスタープラン

策定	北中城村 令和元年 9 月
魅力あるまちなか景観の形成	
■拠点における交流促進や観光振興に資する景観イメージの形成	
村の顔となるライカム地区の拠点においては、同地区に定められた <u>地区計画や景観計画における基準に則り、建築物の高さや色彩に配慮するとともに、公共公益施設の緑化等を図り、賑わい・活力・潤いのある景観形成を図ります。</u> また、新たな拠点が今後整備された場合、地区計画などを活用しながら秩序ある、良好な景観形成を目指します。	
5 都市防災の基本方針	
【基本方針】安全・安心に住み続けられる自然災害に強いまちづくり	
(2) 施策の方針	
防災・減災に向けたまちづくり	
■防災拠点機能の維持・充実・整備	
本村では「北中城村地域防災計画」に基づき、一時避難場所や避難所となる公園や施設が各地に整備されています。今後、更なる防災の向上に向け、既存の避難施設の維持を図るとともに、ライカム地区において広域の防災拠点施設整備を検討します。	
また、他市町村の施設との避難所協定など、 <u>広域的観点から防災拠点の確保を図ります。</u>	
【地域別構想(北部地域)】	
■地区の概要	
本地域は、3自治会（島袋（比嘉）、屋宜原、瑞慶覧）からなる地域です。	
アワセゴルフ場地区跡地となるライカム地区において、イオンモール沖縄ライカム、中部徳洲会病院等の高次都市機能や住宅地が立地し、村内外の人々が集う村の一大交流拠点としての役割を担っています。	
地域内には駐留軍用地があり、ロウワープラザ住宅地区については、2024年またはそれ以降に返還されるとされています。	
道路網は、本村と沖縄市、宜野湾市を繋ぐ国道330号が通っています。	
市街地は地域の北側に形成されており、市街化区域が指定されているとともに、屋宜原地区、瑞慶覧地区には集落が形成されています。	
■地域の主要課題	
・村内外の人々が集う交流拠点として更なる機能強化が求められます。	
・村内外の多様な人々が利用する拠点としての機能向上（バリアフリー化等）が求められます。	
・増加が想定される人口の受け皿（居住地）の整備が求められます。	
・返還される駐留軍用地の跡地利用の検討が求められます。	
・集落や市街地内の交通環境の向上が求められます。	
・居住地としての安全性の向上（自然災害に対する安全性）が求められます。	

■地域の将来像及び取組体系

ライカム地区における広域交流拠点の機能強化

- ➡・広域交通結節点としての機能維持・強化
 - ・防災・スポーツ振興の核としての施設整備の検討
 - ・跡地等を活用した、村の活性化や魅力向上に寄与する土地利用の推進
 - ・交流促進や観光振興に資する景観イメージの形成

利便性の高い市街地の形成

- ➡・沖縄市等と連担する国道330号沿道利用検討
 - ・定住促進に向けた受け皿の確保
 - ・多様な主体との協働による移動手手段の検討

安全・安心に住み続けられる住環境の形成

- ➡・公共公益施設や商業施設におけるバリアフリー化の推進
 - ・主要生活道路や住宅地内道路環境の向上
 - ・良好な住環境の形成に向けた地区計画導入の検討
 - ・無秩序な開発抑制を前提とした既存集落の維持・改善
 - ・地域環境に配慮した防災対策
 - ・墓地の拡散防止に向けた公営墓地の整備

■取組方針

○ライカム地区における広域交流拠点の機能強化

・広域交通結節点としての機能維持・強化

- *本村の公共交通は、本地域のライカム地区を核として、那覇市やうるま市等の主要都市を結ぶ広域のネットワークが形成されており、沖縄県中部地域の交通結節点の1つとなっています。
- *引き続き、中部地域の交通結節点としての機能を維持するとともに、駐留軍用地の返還地等を活用し、更なる充実を図ります。

・防災・スポーツ振興の核としての施設整備の検討

- *ライカム地区の更なる機能強化に向け、周辺施設と連携しながら、スポーツ活動・健康づくり、国際交流、スポーツ・地域文化の振興や災害時の防災活動の拠点となる施設を検討します。

・跡地等を活用した、村の活性化や魅力向上に寄与する土地利用の推進

- *ライカム地区西部（ロウワープラザ地区・サウスプラザ地区）及び東部の丘陵地においては、既存の都市機能との役割分担を踏まえつつ、交通結節拠点等、村の活性化や魅力向上に寄与する土地活用を検討します。
- *跡地等においては、秩序ある都市基盤整備に向けて、市街化編入・用途地域の指定や地区計画の指定、土地区画整理事業等、都市計画環境の整備を合わせて検討します。
- *また、本地域北部に広がる緑地については、沖縄こどもの国の拡張用地としての活用を促進します。

・交流促進や観光振興に資する景観イメージの形成

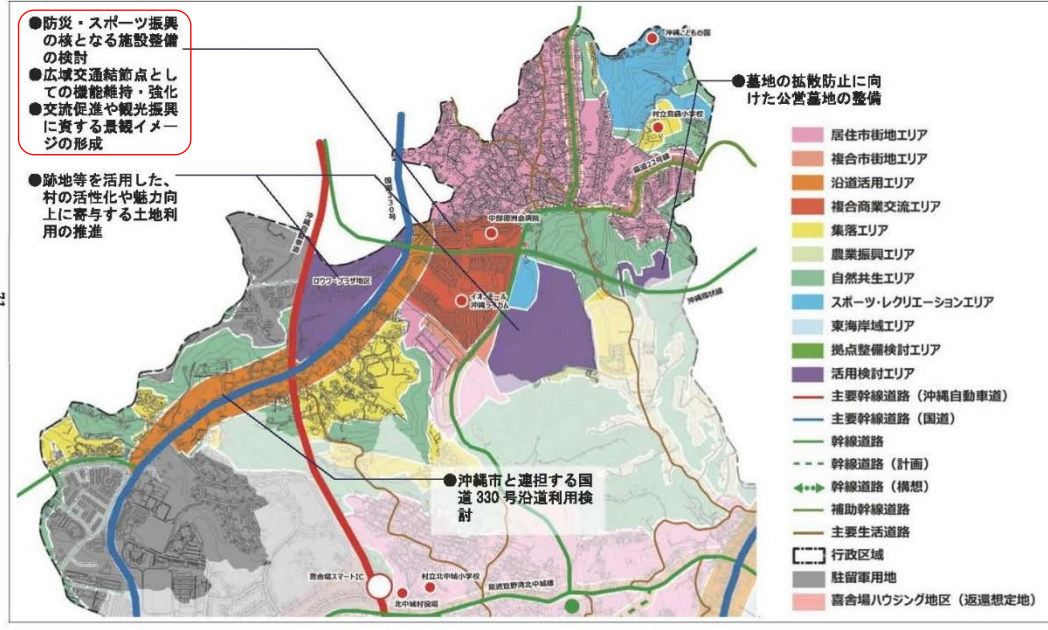
- *ライカム地区においては、地区計画や景観計画に基づき、広域交流拠点として、賑わいと活力ある商業地の景観形成に努めます。

■整備方針図（北部地域）

- 防災・スポーツ振興の核となる施設整備の検討
- 広域交通結節点としての機能維持・強化
- 交流促進や観光振興に資する景観イメージの形成

- 跡地等を活用した、村の活性化や魅力向上に寄与する土地利用の推進

- 基地の拡散防止に向けた公営基地の整備



(5) 北中城村景観計画

策定 北中城村 平成 29 年 3 月

1. 大きなスケールの景観特性

②東海岸から丘陵地域にかけて帯状に広がる斜面緑地

北中城村東側の斜面緑地については、中南部都市圏における貴重な自然環境であり、北中城村における骨格的な緑の景観を形成しています。

特に、アワセ土地区画整理事業地区（以下「アワセ地区」という。）東側を縁取る斜面緑地は、豊かな自然と多様な生態系が残存しており、その保全とともに、斜面緑地を活用した景観形成が望まれます。



アワセ地区から眼下の斜面緑地を望む

4. 市街地の景観特性

③アワセ地区

平成22年7月に返還されたアワセゴルフ場跡地は、県道22号線が横断する北側部分から中央部分にかけて、標高100m程度の台地が広がる面積約48haの地区です。

地区南側においては120m～130mの丘陵地、東側には斜面緑地が広がり、東側は標高が急激に下がることから、東海岸を一望できる眺望点となっています。

平成25年からは土地区画整理事業を行っており、現在は大型のリゾートショッピングモールや医療福祉施設が建設されています。今後も村の新たな顔となる拠点、広域交流拠点として、公園・緑地の整備による環境の創造や地域防災拠点の形成、ゆとりある住宅地形成等が検討されているため、起伏に富んだ地形と眺望など、地区の景観特性を生かした良好な景観形成を図るとともに、村の観光振興にも資する景観形成が望まれます。



(6) 第6次沖縄県観光振興基本計画

策定	沖縄県 令和4年7月
沖縄観光の目指す将来像／VISION 「世界から選ばれる持続可能な観光地」-世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島沖縄」-	
将来像達成のイメージ／GOALS <ul style="list-style-type: none">・「世界から選ばれる」とは、世界の人々に認知され、国内有数の広大な海域から構成される海洋島しょ圏として、沖縄でしか味わうことのできない自然・歴史・文化の体験が国内外の旅行者から選ばれる状態を指す。・「持続可能な」とは、豊かな自然環境や地域住民の生活環境への影響を可能な限り軽減しながら、観光業に従事する人々が質の高い安定した暮らしを継続するとともに、地域社会の発展に資する自然・歴史・文化を次世代に引き継ぐ担い手が育成される環境が整った状態を指す。・<u>アフターコロナ</u>においては、安全・安心につながる防疫体制と受入体制の見える化の発信、沖縄の強みである豊かな自然環境や独自の歴史・文化等のソフトパワーを最大限に発揮する観光コンテンツを造成することにより「<u>安全・安心で快適な島沖縄</u>」を実現する。	
将来像に向けた「持続可能な観光地域づくりの追求」／MISSION <p>県民、観光客、観光業従事者が、自然、歴史、文化を尊重しそれぞれの満足度を高めるとともに<u>環境容量の範囲において観光産業の成長と維持を目指すことで沖縄経済を最適に活性化させる。</u></p> <p>→観光客だけではなく、観光事業者や県民を含めた“人”を中心に据え、観光資源を守り続ける「<u>世界から選ばれる持続可能な観光地</u>」として認知された状態を目指す。</p>	
(2)中部圏域 【施策の方向性】 <p>有形・無形の多様な文化資源を生かした体験・滞在型観光など地域資源を活用した本圏域特有の観光スタイルを創出するとともに、良好な景観の形成、環境保全活動と経済活動が共存するルールづくり、魅力ある風景づくり等を推進し、豊かで美しい観光・都市空間の創出を図る。</p> <p>本圏域に集積する<u>スポーツ施設の拡充を促進するとともに、プロスポーツキャンプ等の受入やおきなわマラソンなど各種スポーツイベント開催をはじめとするスポーツツーリズムを推進する。</u>特に、<u>FIBAバスケットボールワールドカップ2023等の国際大会の開催など、沖縄アリーナを核とした「スポーツアイランド沖縄」の形成に向けた取組を推進する。</u></p> <p>また、東部海浜開発地区「潮乃森」など、新たなスポーツコンベンション拠点を有するビーチフロント観光地の形成やCIQの常設化及び迅速化、充実した船舶補給施設の整備などによりスーパーヨット受入の環境整備を推進するとともに、沖縄県総合運動公園、吉の浦公園等の総合スポーツ施設等を生かし、プロスポーツチームの合宿や、学生及び社会人におけるクラブ活動の誘致など、長期滞在型の多様なスポーツツーリズムを推進する。さらに、首里城を起点として中城城跡、勝連城跡、座喜味城跡を周遊しやすくするための取組を推進する。</p>	

(7) 北中城村観光振興基本計画

策定	北中城村 平成 28 年 5 月
基本理念：豊かな時間を過ごせる『健幸度世界一のむら』北中城村の実現	
計画の名称：北中城村ツーリズムビジョン ～健幸度世界一のむら実現を目指して～	
施策の基本方針：	
<p>(1) 多様で魅力ある観光体験の提供</p> <p>北中城村らしい観光体験を高品質で提供するとともに、それらのイメージを基調としながら、<u>スポーツや医療、北中城村の伝統芸能などを活用した多様なツーリズムを展開することで、新たな市場を開拓する。</u></p> <p>また、観光体験の質を担保し、観光客が安心して楽しめる環境づくりにつなげることを目的として観光サービスの品質保証の検討を進めるほか、多様な観光体験が相乗的に魅力を発揮していくための地域の特色づけについて検討、推進を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none">・多様（文化・健康・娯楽など）なツーリズムの推進・観光資源創出の推進	
<p>(2) 基盤となる旅行環境の整備</p>	
<p>(3) 効果的なマーケティング・プロモーション</p>	
<p>(4) 推進体制の構築</p> <p>大型商業施設の開業や最先端医療施設を備えた大型病院の開院、クルーズ船の中城湾港入港や大型MICE施設の建設決定など、来村者数の激増や多様化する観光需要に対応するため、日本版DMO※を目指した観光協会を設立し、村の観光振興に取り組む体制を構築する。</p> <p>また、これらを計画的・長期的に取り組んでいくため観光振興基本計画に基づく観光振興アクションプランの策定をおこない、観光関連の計画遂行における役割の明確化と整理を行い、関係者が共有できる基本理念実現のための道筋を明確に示す。さらに、観光関係者が情報を共有し、課題と今後の方向性について議論するための公的な協議の場の設置検討などを行い、産学官金一体となった観光の推進を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none">・日本版DMOを目指した観光協会・北中城村観光振興基本計画に基づく観光振興アクションプランの策定・計画遂行における役割の明確化と整理による具体的な観光推進体制の構築・公的な協議の場の設置検討 <p>※ 日本版DMO：多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための調整機能を備えた法人 (出展：観光庁)</p>	
施策の展開	
<p>(2) 健康（ウェルネス・メディカル・ヘルス・スポーツ）ツーリズムの推進 ～笑顔に囲まれた豊かな時間の提供～</p> <p>医療拠点を中心に、民間事業者と連携し、メディカル・ヘルスツーリズムを促進する。また、<u>多目的アリーナ・村民体育館などを活用し、健康増進を核としたたスポーツツーリズムを推進する。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・村民及び観光客の健康増進に有益なツーリズムの推進・健康・長寿を支える食文化を活用したツーリズムの促進・関係機関との連携によるウェルネスツーリズムや医療ツーリズムの促進・<u>ショッピング・医療・スポーツの各拠点の連携体制構築の推進及び促進</u>・シーカヤックなどのマリンスポーツツーリズムの推進についての検討	

(8) 北中城村国土強靱化地域計画

策定	北中城村 令和2年3月
【事前に備えるべき目標】 5 大規模自然災害発生後であっても、経済活動(サプライチェーンを含む)を機能不全に陥らせない	
【起きてはならない最悪の事態(リスクシナリオ)】 5-1 サプライチェーンの寸断、基幹的交通ネットワークの機能停止等による地域経済活動の低下 5-2 社会経済活動、サプライチェーンの維持に必要なエネルギー供給の停止 5-3 食料等の安定供給の停滞	
【推進施策】 ・住民及び企業に非常食料備蓄の啓発を図る。 ・企業との防災協定締結に努める。 ・ <u>ライカム地区公園内の井戸を防災時に利用できるように検討する。</u>	

(9) 北中城村地域防災計画

策定	北中城村 平成31年3月
指定緊急避難場所に指定 (対象とする異常な現象の種類：洪水 崖崩れ、土石流及び地すべり、高潮、地震、津波、大きな火事、内水氾濫) ・イオンモール沖縄ライカム駐車場	

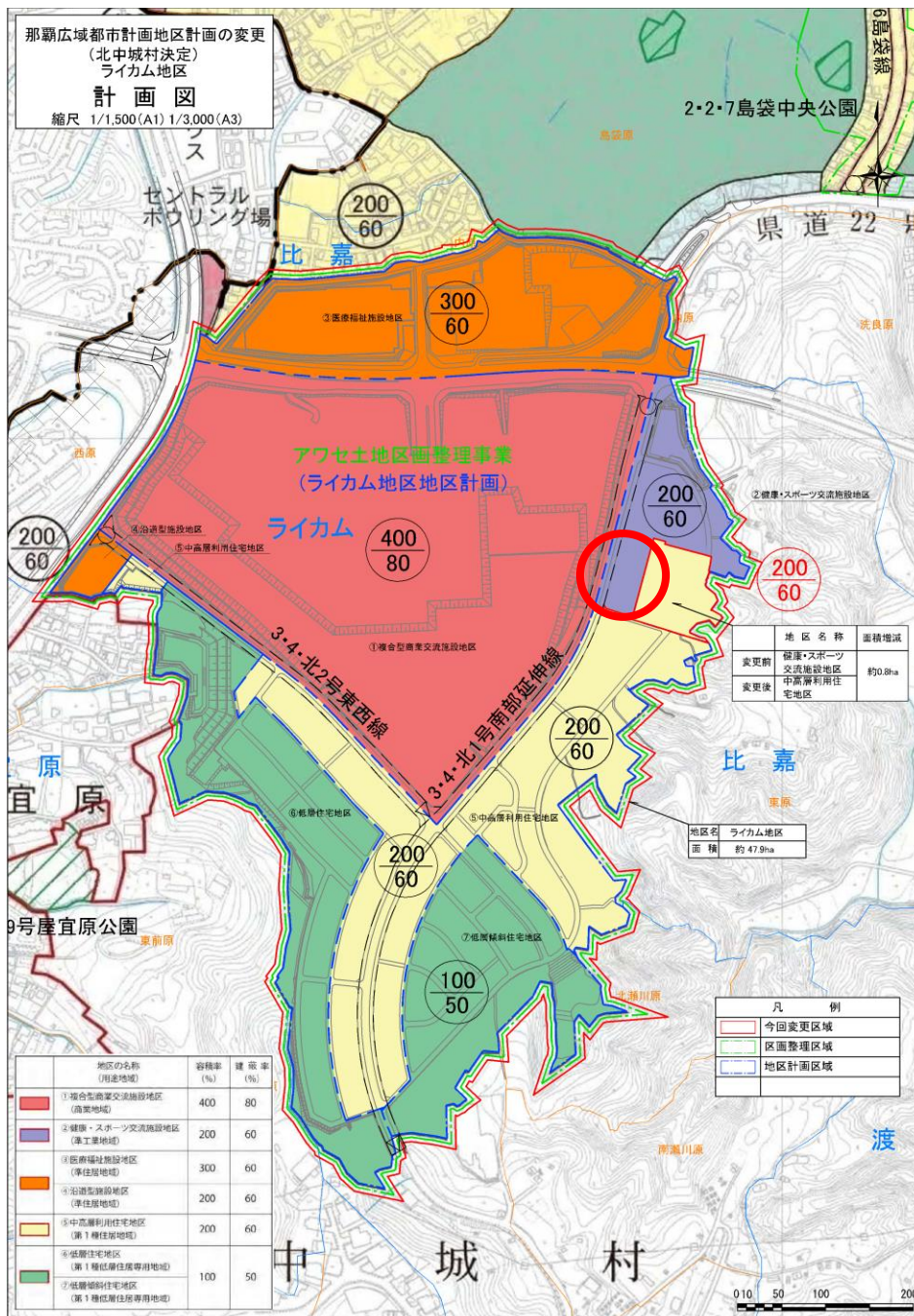
(10) ライカム地区地区計画

アワセ土地区画整理事業は令和2年3月に完了しており、当該地区では平成28年10月に「アワセゴルフ場地区地区計画」が策定された。

当初、多目的アリーナ建設を計画していたエリアは「健康・スポーツ交流施設地区」と位置付けられ、準工業地域の用途地域を指定していたが、当該施設の規模縮小の方針に伴い、令和5年3月には土地利用計画の見直しと地区名称の変更による「ライカム地区地区計画」が都市計画決定（変更）された。

策定 北中城村（当初:アワセ地区）平成28年10月、（変更:ライカム地区）令和5年3月

【ライカム区地区計画】

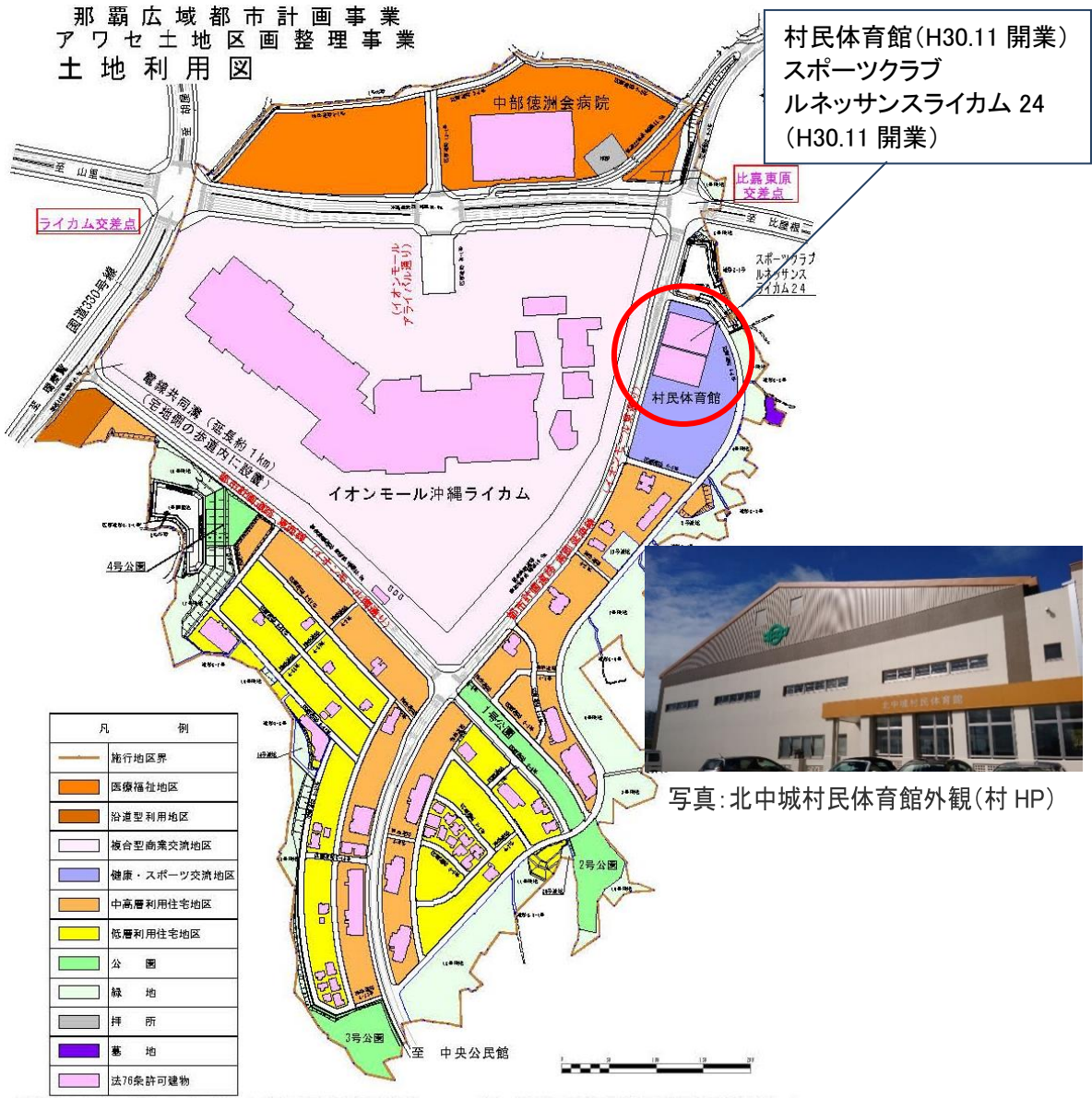


資料：ライカム地区計画（令和5年3月）

【地区整備計画の内容 地区計画書より抜粋】

地区の名称 (用途地域)	健康・スポーツ交流施設地区 (準工業地域)
建築物の用途 の制限	準工業地域内に建てられる建築物のうち、次の各号に掲げる建築物を建築してはならない(用途利用してはならない)。 1 住宅、共同住宅、寄宿舎又は下宿 2 勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これに類するもの 3 自動車教習所 4 床面積の合計が 15 m ² を超える畜舎 5 風営法第 2 条第 1 項第 1 号から第 4 号までに掲げる「風俗営業」又は同条第 6 項に規定する「店舗型性風俗特殊営業」の用に供する建築物 6 店舗、飲食店、展示場、遊技場に供する建築物でその用途に供する部分の床面積の合計が 1ha を超えるもの 7 床面積の合計が 150 m ² を超える工場
容積率(用途地域による)	200%
建蔽率(用途地域による)	60% ただし、建築基準法第 53 条第 3 項第 2 号が適用される場合の建蔽率は上記の建蔽率に指定の数値を加えたものとする。
建築物の敷地面積の最低限度	300 m ² 1 専用駐車場の確保に努める。 2 ただし、次に掲げる建築物の敷地については、この限りではない。 ・仮換地指定された土地 ・集会所(近隣住民を対象としたものに限る。) ・巡査派出所、公衆電話所又は建築基準法施行令第 130 条の 4 に定める公益上必要な建築物
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱面から道路の境界線(隅切部分を除く。)及び隣地境界線までの距離は、次に掲げる数値以上としなければならない。 1 道路に面する建築物の外壁又は柱面は、道路の境界線から 2.0m 以上後退した位置とする。 2 隣地に接する部分の建築物の外壁又は柱面は、隣地境界線から 1.5m 以上後退した位置とする。
建築物の高さの最高限度	—
建築物等の形態又は意匠の制限	屋外広告物は、自己の用に供するもの以外を禁止し、色彩、形態等の意匠は、周囲の景観的調和に配慮したものとする。
垣または柵の構造の制限	道路に面して設ける垣、又は柵は次の各号に掲げる構造のいずれかとする。ただし、門柱、門扉についてはこの限りではないが、周辺環境に配慮したものとする。 1 生垣 2 地盤面からの高さが 1.5m 以下のものとする。ただし、安全上の対策として設ける障壁等については除く。 3 網状その他これに類する形状のもので開放性を著しく妨げないもの
緑化率の最低限度その他	—

那覇広域都市計画事業
アワセ土地区画整理事業
土地利用図



※図：北中城村アワセ土地区画整理組合

【ネーミングライツにより道路名称を定めています。】

写真：北中城村民体育館外観(村 HP)

1. アワセ土地区画整理事業の概要について

- 事業名：那覇広域都市計画事業 アワセ土地区画整理事業
- 施行者：北中城村アワセ土地区画整理組合
- 施行期間：平成25年6月10日～令和2年3月30日（認可日）
- 事業費：約84.6億円
- 施行面積：約48ha
- 減歩率：37.96%（公共19.72%、保留地18.24%）
- 主な土地活用の状況
 - ・イオンモール沖縄ライカム（平成27年4月開店）
 - ・中部徳洲会病院（平成28年4月移転開院）
 - ・北中城村民体育館（平成30年11月開館）
 - ・スポーツクラブルネッサンスライカム24（平成30年11月開業）
 - ※その他、分譲マンションや戸建住宅等の新設多数

(11) 北中城村民体育館

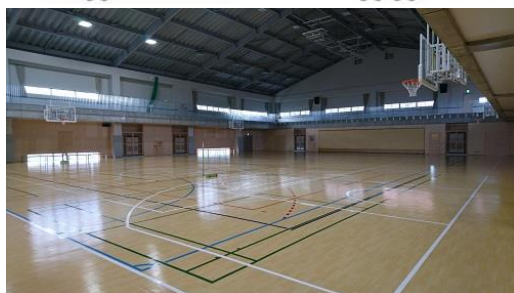
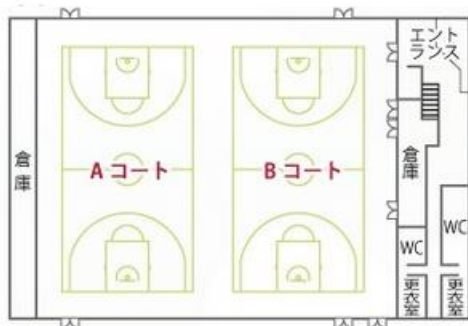
開館 : 平成 30 年 11 月

利用時間 : 午前 9 時 から 午後 10 時 休館日 : 毎週火曜日 12 月 29 日から 1 月 3 日まで

利用可能競技 : バスケットボール・バレーボール (6 人制・9 人制) バドミントン・テニス
ハンドボール・フットサル・卓球 など

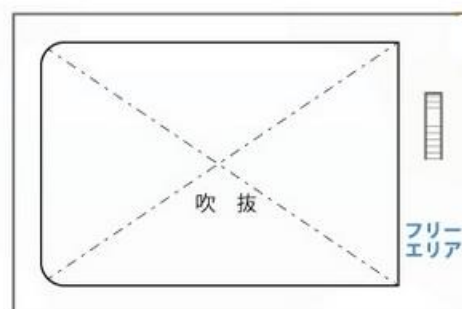
【体育館平面図】

1階



1階の様子

2階



2階の様子

【料金】

専用使用

料金

		午前		午後	
		9時～13時	13時～17時	17時～22時	
入場料を 徴収しない場合	村内団体	5,000円	7,000円	13,000円	
	村外団体	7,000円	11,000円	20,000円	
入場料を 徴収する場合	村内団体	7,000円	10,000円	15,000円	
	村外団体	12,000円	17,000円	26,000円	

・専用使用については、利用者が村内在住者の場合 3ヶ月前、村外在住者の場合 2ヶ月前から予約できます。

・使用する日の10日前までに使用許可申請を行ってください。

冷房設備 : 2,000 円 / 1 時間

シャワー設備 : 200 円 / 1 回

一般利用

代表者が「村内在住」	500 円
代表者が「村外在住」	1,000 円

- ・半コート (照明料込み) / 1 時間・1 団体あたりの料金
- ・団体代表者が村内・外在住かで料金を算出
- ・2 階部分は無料開放 (専用使用時は利用できません)
- ・中学生以下のみでの利用はできません。
- ・通常使用については、団体代表者が村内在住者の場合 2ヶ月前、村外在住者の場合 1ヶ月前から予約できます。使用許可申請は利用当日でもかまいません。

(参考 : 北中城村 HP)

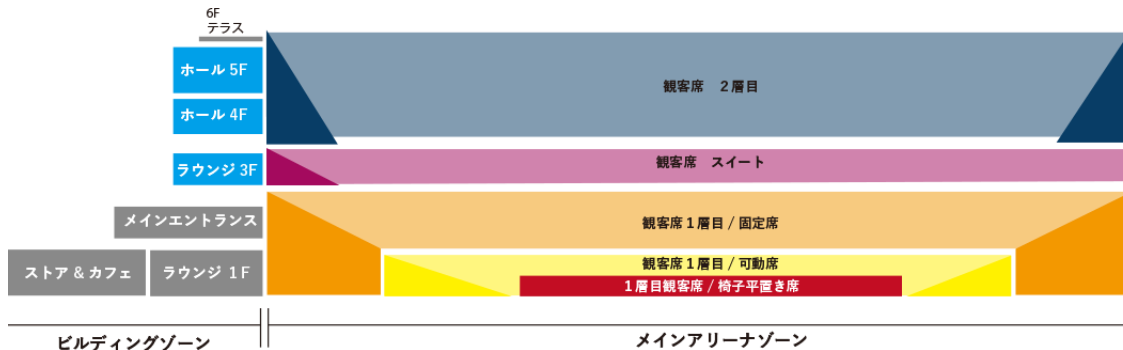
(12) その他（本村周辺におけるアリーナ等類似施設の整備状況）

沖縄市アリーナ 令和3年2月竣工（周辺類似施設の概要）

活用補助金：再編推進事業補助金、沖縄振興特定事業推進費補助金、沖縄振興特別推進交付金

【施設概要】 地上6階建 県内最大のイベントフロア面積 510インチの大型映像装置を整備

【利用時間】 原則無休 基本利用時間は10時より22時までの12時



収容人数：10,000人～7,000人、スポーツ、バスケットボール：8,000人収容可 展示会面積：2,600㎡
2023年にFIBAバスケットボールワールドカップを開催予定

メインコンセプト及び基本方針

＜メインコンセプト＞

「未来を創り、地域を活性化するアリーナ」～夢を与え、感動を与え、未来を創っていく～

＜基本方針＞

- ①バスケットボールを中心としたスポーツ興行を開催する「観せる」施設
- ②各種コンサート、コンベンション等を開催する「使いやすい」施設



- ③観客満足度を高め、より多くの事業主体に利用される1万人規模の施設「スマート・ベニュー」の考え方を取り入れた多機能型施設の先進事例の形成支援

（参考：沖縄アリーナ HP、沖縄アリーナ PDF）

【沖縄アリーナ利用料金】

基本料金

1. 基本利用料金は、メインアリーナのイベントフロア及び観客席1層目（移動式観客席＋固定式観客席）の利用が含まれ、観客席2層目、観客席スイート、ホール及びラウンジの利用は含まれません。
尚、基本利用料金は平日と土日祝休日に区分され、年末年始（12月29日～1月3日）、ゴールデンウィーク（4月29日～5月5日）、その他、沖縄アリーナ株式会社が定める期間は土日祝休日に区分します。
2. 観客席2層目及び観客席スイートの利用を希望する場合は、書面による事前申請の上、沖縄アリーナ株式会社が承認した場合に限り、追加料金を支払うことで利用可能となります。
3. ホール及びラウンジを含むメインアリーナ全施設の利用を希望する場合は、書面による事前申請の上、沖縄アリーナ株式会社が承認した場合に限り、追加料金を支払うことで利用可能となります。

延長利用料金

基本利用時間を超えて利用する延長利用時間において、1時間毎に発生する利用料金です。
尚、延長利用料金には、平日と土日祝休日の区分はありません。

その他料金

附属設備等の使用を希望する場合は、書面による事前申請の上、沖縄アリーナ株式会社が承認した場合に限り、附属設備利用料金を支払うことで利用可能となります。

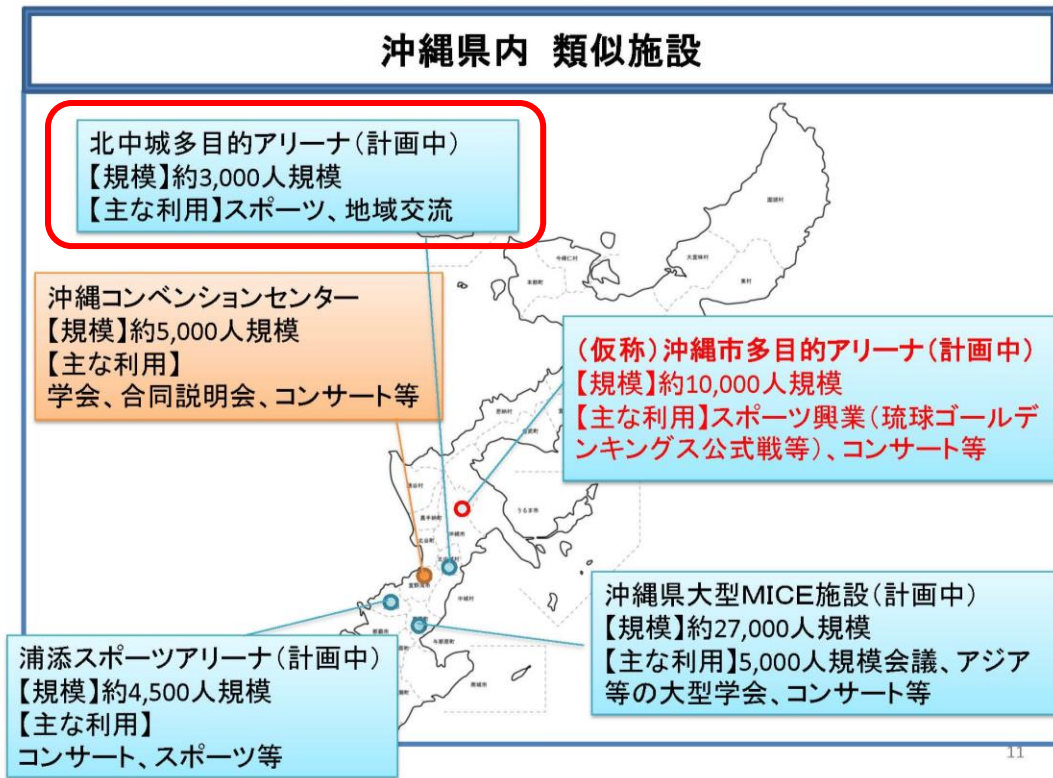
水道光熱費等は事後精算で別途お支払いいただきます。

ゾーン	名称	基本利用時間 10:00-22:00(12時間)		延長利用時間 22:00-10:00 (1時間毎)
		平日	土日祝	
メインアリーナゾーン	イベントフロア	¥900,000	¥1,800,000	¥150,000/時間
	観客席 1層目			
	観客席 2層目	¥60,000	¥120,000	¥10,000/時間
	観客席 スイート	¥60,000	¥120,000	¥10,000/時間
ビルディングゾーン	ホール 5F	¥60,000	¥120,000	¥10,000/時間
	ホール 4F	¥60,000	¥120,000	¥10,000/時間
	ラウンジ 3F	¥60,000	¥120,000	¥10,000/時間
	ラウンジ 1F	¥60,000	¥120,000	¥10,000/時間

上記記載以外の利用料金の詳細については、利用予約時に沖縄アリーナへお問い合わせください。

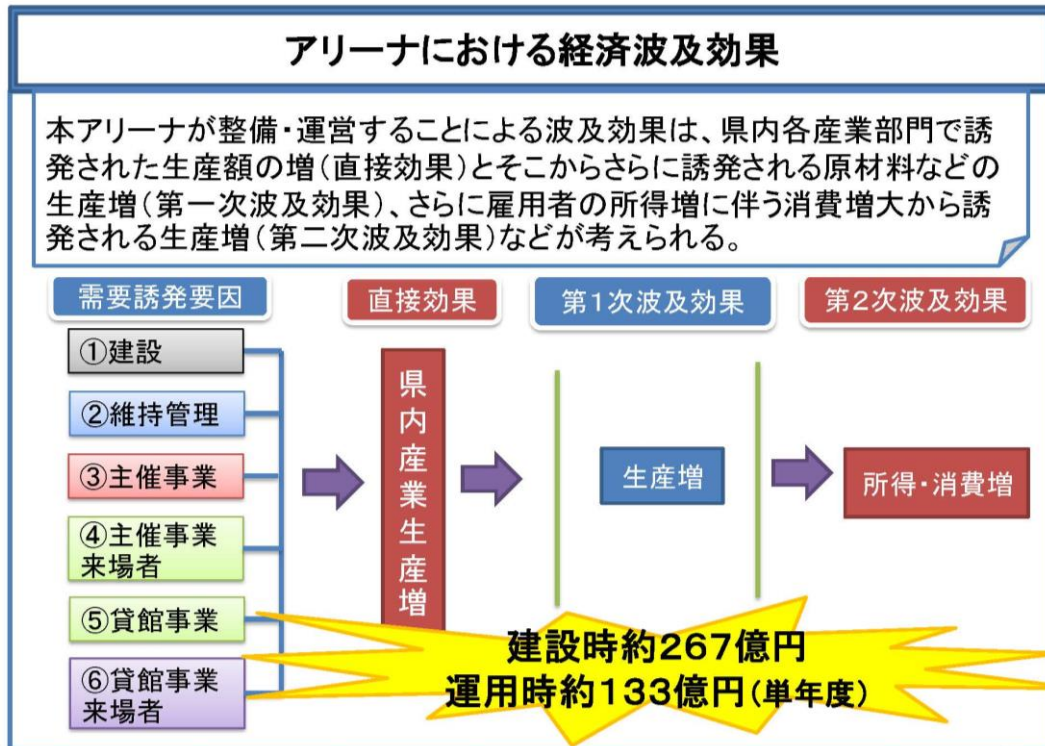
(参考：沖縄アリーナ HP)

【沖縄県内の類似施設】



(引用：(仮称) 沖縄市多目的アリーナ施設等整備 全体計画調査業務報告書【概要】)

【アリーナにおける経済波及効果】



(引用：(仮称) 沖縄市多目的アリーナ施設等整備 全体計画調査業務報告書【概要】)

沖縄県大型 MICE 施設（周辺類似施設の概要）

【整備・運営コンセプト】

大型MICE施設の基本要件(コンセプト)

「沖縄の観光リゾートの魅力」と「産業振興」の拠点となる大型MICE施設
 —MICE振興とビジネスツーリズムの推進—
 —ビジネス交流のプラットフォームとなる中核施設の形成—

<整備・運営の方向性>

アジアのトレードハブとなる施設
 > 国内外の国際会議や大型展示会を誘致できる施設規模や機能を有する施設
 > 沖縄のリゾート性、マリンタウンの魅力を発信する施設
 > 沖縄のシンボルとなる施設

多様な催事ニーズを受け入れる施設
 > 地元催事イベントやビジネスツーリズムを誘致できる施設
 > 県内最大規模の屋内コンサートが開催可能な施設
 > エリアMICEの実現を推進する施設

マリンタウンMICEエリアのまちづくりを先導する施設
 > 整備・運営の両面においてサステナビリティ(省エネ、地域連携など)に配慮した施設(スマートベニュー)
 > デジタル技術活用による利便性の向上とともに、県内DXを先導する象徴的施設

大型MICE施設の概要

項目	内容
敷地面積	14.5ha
延床面積	約88,700㎡
施設構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示場(面積約10,000㎡) ・ 多目的ホール(面積約7,500㎡) ・ ホワイエ、会議室、付帯施設 ・ 一般車用立体駐車場、大型バス駐車場、荷捌き ・ H3-TゾーンとH1ゾーンを結ぶペDESTリアンデッキ ・ その他民間事業者の提案する施設

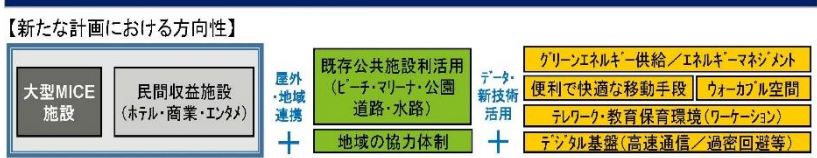


【市況の変化を踏まえた計画変更】

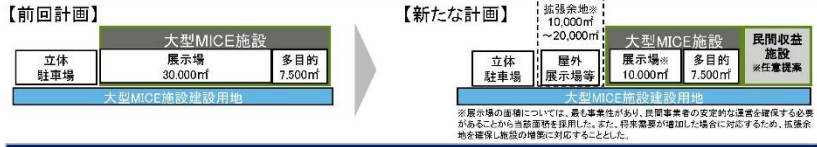
1. 大型MICE施設とMICE開催に必要な機能(ホテル等)の民間収益施設を一体的に整備



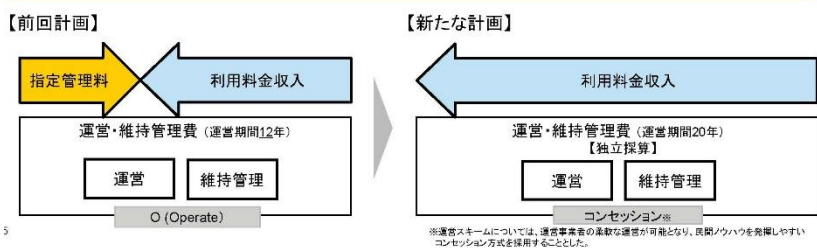
2. SDG'sを踏まえ、ニューノーマルに即した地域運営



3. 大型MICE施設の段階的拡張整備の手法と土地活用



4. 大型MICE施設の運営スキーム



(引用：沖縄県マリンタウン MICE エリア形成事業 基本計画(案) 令和4年2月 沖縄県)

(仮称) うるま市総合アリーナ整備基本計画 (周辺類似施設の概要)

基本コンセプト：うるまの“元気”を生み、“もしも”を守る拠点 (仮称) うるま市総合アリーナ

【整備方針】

- ◆多様なスポーツへの関わりを通じて、心身ともに健康になる施設
- ◆様々な災害に対応した、人々の安心・安全を守る施設
- ◆交流を促進し、地域の活性化につながる施設

【新アリーナの利用見込み】

	主な利用想定
平日	市民の一般利用、レッスン教室等への参加 市内クラブチーム・サークル等の練習利用 市内幼稚園・保育園等の行事利用 文化的なサークル活動等の利用
土日祝日	市内の試合・大会等での利用 県大会等、大規模な試合・大会等での利用 イベント等での利用



【導入機能】

① スポーツ振興機能

市民スポーツの拠点として、現在の施設の機能を踏襲しつつ、多様な種目が、練習試合から大規模大会まで幅広いレベルで楽しめるよう、機能を強化します。

② 健康増進機能

誰もが気軽に楽しめる、運動のきっかけをつくり、継続的に行いたくなるような施設、設備機能を導入します。

③ 防災機能

災害時の避難所として、避難者が安心・安全に過ごすための設備等を導入するとともに、停電時においても必要な設備が稼働可能な設備機能を導入することで、要配慮者（熱中症対策が必要な方）の安全にも配慮した、避難所としての機能を強化します。

④ 交流・地域活性化機能

トップチームの合宿や練習試合、スポーツ以外のイベントにも対応できる施設機能、利用者の利便性を高める機能を導入します。

【施設規模】

これまでのニーズ調査などを参考に、以下の競技に対応できる規模を前提とし、アリーナ面積を 2,600 m² (65m×40m) と想定します。

天井高については、高さを必要とするバレーボールの公式戦に対応するため、12.5m 以上を確保することを想定します。また、フットサルなどの球技種目においてボールから壁面や設備を保護するため、防球ネットの設置や、ゴール裏にマットを設置できるような仕様とします。

【新アリーナ候補地】

新たに整備するアリーナについては、具志川総合運動公園の地形や、既存の施設の整備状況、動線、まとまった駐車場等の整備場所などを考慮し、現具志川総合体育館ならびに具志川総合グラウンドの敷地に整備することが望ましいと考えられます。

老朽化が進む具志川総合体育館及び具志川総合グラウンドについて、具志川総合体育館の機能は新アリーナに引継ぐこととし、具志川総合グラウンドについては、市内の他陸上競技場に機能を集約化していくことを検討します。

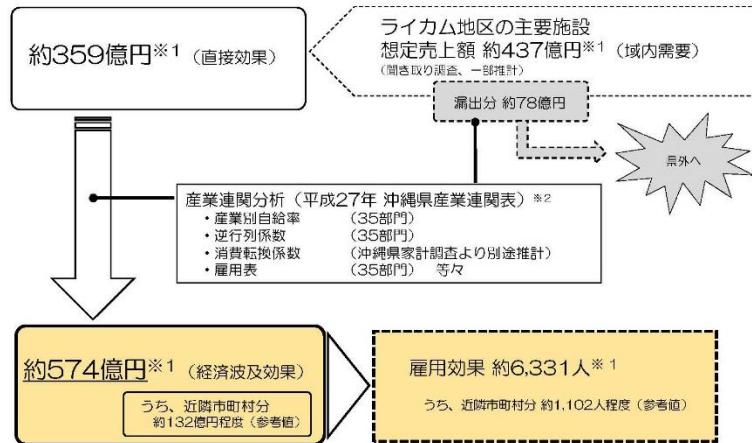


ライカム地区における主要施設の企業活動による沖縄県全体への経済波及効果

2. 経済効果について（ライカム地区における需要創出による沖縄県全体へのインパクト）

ライカム地区における主要施設の企業活動による沖縄県全体への経済波及効果

→ 県全体への効果は、**約574億円/年（最大値）**となる。



注1：上記の値（金額・人数）については、単位未満の値を四捨五入した上で表記している。（以後11ページまで同様）
 注2：本表は、5年に一度公表される統計表であり、直近年次は平成27年版となっている。また、沖縄県全体表のみ公表され、市町村別では公表（作成）されていないことが多い。 3

アワセ土地区画整理事業地区「まちびらき」後の経済指標

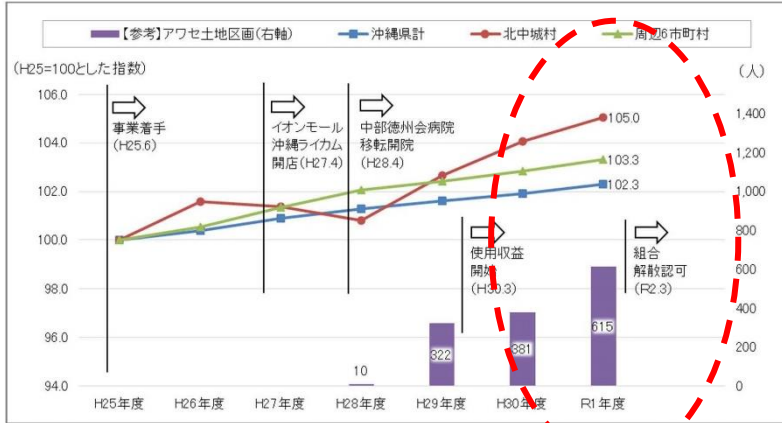
3. まちなみを取り巻く変化について（マクロ経済指標 編）

アワセ土地区画整理事業による「まちびらき」が行われた平成27年度以降、北中城村及び周辺市町村を取り巻く環境は、全体として拡大の基調が見受けられる。その背景には、アワセ土地区画整理事業におけるまちづくりが沖縄本島中部圏域の活性化に寄与したことが推察される。

- 【人口・世帯数】宅地造成後、増加トレンド。周辺6市町村を含め堅調な伸び。
- 【住宅数】空家が減少。居住あり住宅数は増加。新設数は平成27～29年度で大幅な伸び。
- 【市町村民所得】増加トレンド。周辺6市町村を含め堅調な伸び。
- 【事業所・従業員数】平成28年度に大幅な伸び。周辺6市町村を含め従業員数及び売上高の堅調な伸び。
- 【その他】地価は、増加トレンド。周辺6市町村を含め大幅な伸び。
 固定資産税は、平成28年度以降に大幅な伸び。
 観光施設来場者数（暦年）は、平成28年にかけて増加。
 イオンモール沖縄ライカム周辺の各路線の交通量は、いずれも平成22年度時点に比べて増加。

3. まちなみを取り巻く変化について（人口 編）

【人口】宅地造成後、増加トレンド。周辺6市町村を含め堅調な伸び



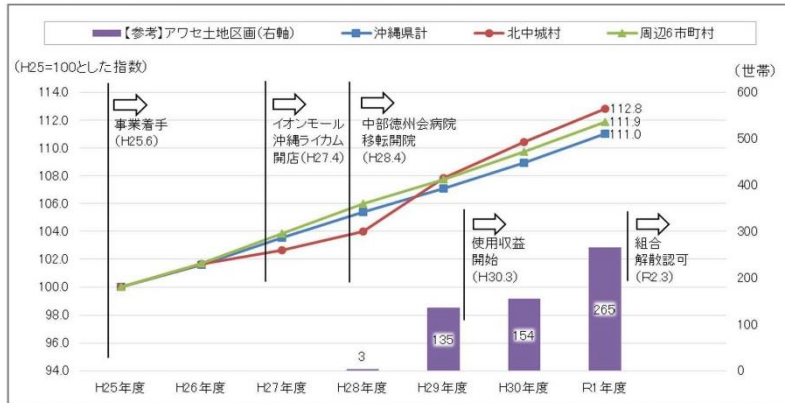
北中城村の人口は、アワセ土地区画整理事業が着手された平成25年度を100とした指数で見ると、令和1年度時点には105.0となっている。平成26年度から平成28年度までは伸び悩んだものの、平成29年度以降はアワセ土地区画整理事業地内（令和1年9月より「字ライカム」）における人口増の影響などにより、沖縄県計や周辺6市町村（宜野湾市、沖縄市、うるま市、嘉手納町、北谷町、中城村）を上回る伸び率となっている。※平成29年度末までに宅地造成完成

※沖縄県「住民基本台帳人口（各年度1月1日時点）」（R1年度時点の統計が最新のため、7年度分を記載）
 ※アワセ土地区画整理事業地内（字ライカム）の数値は北中城村HP（各年度3月末日時点）より

13

3. まちなみを取り巻く変化について（世帯 編）

【世帯】増加トレンド。周辺6市町村を含め堅調な伸び



北中城村の世帯数（平成25年度を100とした指数）は、令和1年度時点で112.8と、沖縄県計や周辺6市町村を上回る伸び率となっている。なお、アワセ土地区画整理事業地内（令和1年9月より「字ライカム」）における令和1年度時点の一世帯あたりの人口は2.28人となっている（沖縄県計は2.22人、北中城村全体は2.41人）。

※沖縄県「住民基本台帳人口（各年度1月1日時点）」（R1年度時点の統計が最新のため、7年度分を記載）
 ※アワセ土地区画整理事業地内（字ライカム）の数値は北中城村HP（各年度3月末日時点）より

14

（引用：アワセ土地区画整理事業による経済効果分析報告書 令和2年10月発行）

3-3. 計画条件の整理

まちづくり実施計画の見直しにあたり、村の概要や対象地区のまちづくりの概要など、当初計画策定以降の動向や変化について整理し、現時点における計画条件として整理する。

区分	特性等
基礎情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口 : 2022年3月31日現在で17,488人、7,668世帯、高齢化率22.9% (10年で約1,000人、約1,400世帯増加、高齢化率は過去5年で約2%上昇) ■ 気候 : 特に大きな変化はなし
まちづくりの方向性と要素	<p>(1) 現計画でのまちづくりの方向性と要素 (本地区のまちづくりに必要な4つの要素)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 環境を創造する交流拠点 ~ 地域の歴史、文化、産物 ■ 健康を増進する交流拠点 ~ 健康増進・スポーツ施設 ■ 観光を振興する交流拠点 ~ スポーツ交流 ■ 安全安心を確保する地域防災拠点 ~ 防災
	<p>(2) 現計画策定以降の上位関連計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 沖縄県21世紀ビジョン基本計画 ■ 那覇広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」 ■ 北中城村第4次総合計画 後期基本計画 ■ 北中城村都市計画マスタープラン ■ 第6次沖縄県観光振興基本計画、北中城村観光振興基本計画 ■ 北中城村国土強靱化地域計画、北中城村地域防災計画
土地利用計画	<p>(1) アワセゴルフ場地区総合整備計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アワセゴルフ場地区地区計画 (H28.10 策定) ※当該地区は「健康・スポーツ交流施設地区」に区分 ■ 村民体育館・スポーツクラブ (H30.11 開業) ■ アワセ土地区画整理事業 (R2.3 完了)
	<p>(2) 北中城村民体育館の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開館: 平成30年11月 ■ 利用可能競技: バスケットボール・バレーボール (6人制・9人制) バドミントン・テニスハンドボール・フットサル・卓球 など ■ 利用状況 : H30 (10,583人)、R1 (29,580人)、R2 (5,060人) ※北中城村公共施設等総合管理計画 (R4.3 改訂) より
	<p>(3) 本村周辺におけるアリーナ等類似施設の整備状況及び計画等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 沖縄市アリーナ (R3.2 竣工、最大約10,000人) ■ 沖縄コンベンションセンター (整備済、宜野湾市、約5,000人) ■ 浦添市民体育館【ANA ARENA 浦添】 (整備済、浦添市、アリーナ3,000㎡) ■ 沖縄県大型MICE施設 (計画中、沖縄県、展示場・多目的ホール、約10,000人) ■ (仮称) うるま市総合アリーナ (計画中、うるま市、アリーナ2,600㎡)
景観形成	<p>(1) アワセゴルフ場地区総合整備計画 (H25.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「緑と眺望を活かした景観の誘導」 <p>(2) 北中城村景観計画 (H29.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「東海岸から給料地域に書けて帯状に広がる斜面緑地」を活用した景観形成 ■ 「アワセ地区」について、地区の景観特性を活かした良好な景観形成、村の観光振興にも資する景観形成

3-4. 対象地区の特性と課題（課題の変化）

北中城村まちづくり基本構想において、対象地区（アワセゴルフ場地区）のまちづくりに必要な要素のうち、「満たされていない要素（①健康増進・スポーツ、②地域の歴史・文化・産物、③スポーツ交流、④防災）」に関する地区特性及び解決すべき課題（多目的アリーナの必要性・妥当性）が整理されている。

しかし、当初計画の策定後、周辺環境が大きく変化してきていることから、それらを踏まえて地区特性や課題を再整理するとともに、上位計画における本村の将来像に基づき、本地区に求められる役割を整理する。

(1) 対象地区の特性の変化

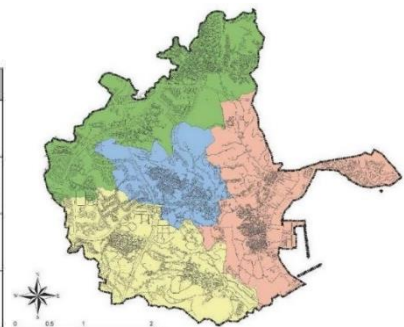
① 健康増進・スポーツ

(当初計画) スポーツ活動が盛んな地域特性に対応した活動の場が不足している
 ⇒村民体育館に加え、周辺で県内最大級の沖縄アリーナがオープンし、うるま市アリーナが計画中などスポーツ施設の立地状況が変化

特性	問題点	期待する点	当初計画後の変化 (動向及び都市マスの位置付け)
広域環境	<ul style="list-style-type: none"> ・村の主な運動施設である <u>村立体育館</u>が H23 に閉鎖解体されたが、代替え施設が未整備である。 ・村内の小中学校の体育館が開放され一般利用が可能となっているが、学校教育に支障のない範囲に限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にスポーツ活動が盛んで、<u>村立体育館の利用頻度が高かった</u> (平成 22 年利用実績: 205 団体、869 回利用)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>村民体育館</u>が平成 30 年 11 月 5 日にオープン ・県内最大規模のアリーナを有する <u>沖縄アリーナ</u>が沖縄市に令和 3 年 2 月にオープン ・<u>うるま市アリーナ計画</u>が進行中 ・学校開放は継続して実施

特性	問題点	期待する点	当初計画後の変化 (動向及び都市マスの位置付け)
地区環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な施設は村の中央部に立地し、もともと人口が多く、調査対象地区の開発により人口増が見込まれる北部地域に少ない。 ・ 将来像実現に向けて必要な地域の健康増進・スポーツの要素を満たす施設機能が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 330 号と沖縄環状線の交わるライカム交差点に面した<u>交通環境に優れた立地</u>にある。 ・ 地区内で病院の移転が計画されており、これらの施設と<u>連携した健康増進施設</u>としての利用が期待される。 	<p>東部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内にはプールやテニスコート、広場等を内包する沖縄県総合運動公園が立地しており、本村のスポーツ・レクリエーションの拠点的作用を担っているが、スポーツ・レクリエーションの拠点として機能維持・強化が求められる。 <p>北部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライカム地区の更なる機能強化に向け、<u>周辺施設と連携しながら、スポーツ活動・健康づくり、国際交流、スポーツ・地域文化の振興や災害時の防災活動の拠点となる施設</u>の検討が求められている。 ・ 「島袋野比灘原土地区画整理地区」については、住宅用地としてではなく、沖縄こどもの国公園の拡張計画地として、広域的なスポーツ・レクリエーション機能の充実を図る。

凡例	地域名	構成
	中部地域	喜舎場、仲順
	東部地域	熱田、和仁屋、渡口、美崎、県営北中城団地
	北部地域	島袋（比嘉）、屋宜原、瑞慶覧
	南部地域	石平、安谷屋、荻道、大城



図：(参考)都市マス地域区分

② 地域の歴史・文化・産物

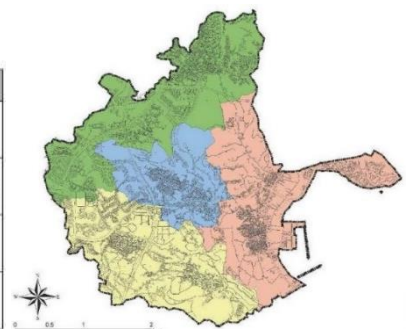
(当初計画) 村民の活躍が地域活力を生む資源として期待される

⇒ライカム地区の広域交流拠点の整備により、交流人口の増加が期待されるとともに、中城湾港新港地区の背後地にある立地を活かした新規産業等の誘致・育成も求められる

特性	問題点	期待する点	当初計画後の変化 (動向及び都市マスの位置付け)
広域環境	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産「中城城跡」を有するが、それ以外に目立った観光施設がない。  <p>【中城城跡】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常的にスポーツ活動が盛んで、<u>村立体育館の利用頻度が高かった。</u> バスケットボールが盛んで、村内の小中高は、<u>全国大会でも活躍</u>  <p>【北中城中学校】 【2004年 全国中学校体育大会「優勝」】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 変化なし。

特性	問題点	期待する点	当初計画後の変化 (動向及び都市マスの位置付け)
地区環境	<ul style="list-style-type: none"> 将来像実現に向けて必要な地域の歴史・文化・産物の要素を満たす施設機能が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 330 号と沖縄環状線の交わるライカム交差点に面した交通環境に優れた立地にある。 調査対象地区は、<u>村の新たな顔として市街地整備</u>が予定されている。 	<p>東部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 東海岸地域における大型 MICE 施設整備の影響を活かしたまちづくりが求められている。 <p>北部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>村内外の人々が集う交流拠点として更なる機能強化</u>が求められている。 <p>南部地域</p> <p>現状：中城城跡や中村家住宅、荻堂貝塚等、県内外に誇る歴史的な遺産を有し、本地域の集落（荻道・大城）においては、中村家住宅をはじめとした赤瓦屋根の住宅、フクギの屋敷林や、豊かな起伏がもたらす湧水群など、これまで受け継がれてきた伝統的な集落景観がある。</p> <p>課題：これら歴史的・伝統的な資源の保全・活用や、伝統的な集落景観の保全が求められる。</p>


凡例	地域名	構成
	中部地域	喜舎場、仲順
	東部地域	熱田、和仁屋、渡口、美崎、県営北中城団地
	北部地域	島袋（比嘉）、屋宜原、瑞慶覧
	南部地域	石平、安谷屋、荻道、大城



図：(参考)都市マス地域区分

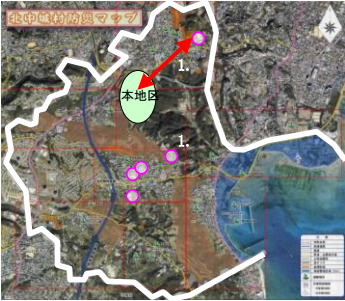
③ スポーツ交流

(当初計画) バasketボール等のスポーツが国際交流の機会となっている
 ⇒沖縄アリーナにおいて、B リーグ公式戦開催 (沖縄ゴールデンキングスのホームアリーナ)、2023 年Basketボールワールドカップの開催が決定

特性	問題点	期待する点	当初計画後の変化 (動向及び都市マスの位置付け)
広域環境	<ul style="list-style-type: none"> 村の主な運動施設である村立体育館が H23 に閉鎖解体されたが、代替え施設が未整備である。 	<ul style="list-style-type: none"> Basketボールが盛んで、村内の小中高は、全国大会でも活躍 村の国際交流協会を通じて、<u>スポーツ交流</u>が行われている。 <u>琉米高校生友好親善Basketボール大会</u>が、キャンプ瑞慶覧内の体育館で毎年行われている。 <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【Basketボールによる国際交流】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県内最大規模のアリーナを有する沖縄アリーナが沖縄市に令和 3 年 2 月にオープン。 うるま市アリーナ計画が進行中。
地区環境	<ul style="list-style-type: none"> 将来像実現に向けて必要な地域のスポーツ交流の要素を満たす施設機能が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 330 号と沖縄環状線の交わるライカム交差点に面した交通環境に優れた立地にある。 調査対象地区は、<u>村の新たな顔として市街地整備</u>が予定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 変化なし。

④ 防災

(当初計画) 村立体育館に代わる大規模避難所や村の防災拠点になりえる立地環境
⇒村民体育館が指定避難所になっており、ライカム地区周辺において、広域的な利用を見据えた交通・医療・商業・文化・福祉・観光・防災・スポーツ等の総合的な機能強化を図ることとされている

特性	問題点	期待する点	当初計画後の変化 (動向及び都市マスの位置付け)
広域環境	<ul style="list-style-type: none"> ・村の大規模避難所は、5箇所あるが、人口の約1/3を占める北部地区には1箇所と設置箇所に偏りがある。 ・大規模避難所の1つである村立体育館がH23に閉鎖解体されたが、代替え施設が未整備である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村地域防災計画では、<u>防災拠点機能の確保</u>を防災まちづくりの方針として掲げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村の施設との避難所協定など、<u>広域的観点から防災拠点の確保</u>を図る。 ・<u>イオンモール沖縄ライカムの駐車場が避難場所として指定されている。</u>
地区環境	<ul style="list-style-type: none"> ・調査対象地区の開発により人口増が見込まれるが、地区周辺には避難所がない。 ・将来像実現に向けて必要な地域の防災の要素を満たす施設機能が不足している。  <p>【本村の大規模避難所の位置】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>津波災害の直接被害を受けにくい高台</u>(標高100m前後)に位置する。 ・国道330号と沖縄環状線の交わるライカム交差点に面した<u>交通環境に優れた立地</u>にあり、災害時の広域的な防災拠点としての活用可能性がある。 ・地区内で大型商業施設の出店や病院の移転が計画されており、これらの施設からの<u>物資供給や医療活動での連携</u>が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本村では人口増を維持しており、役場周辺やライカム地区等における拠点の形成による住みよいまちが形成されている。この状況を維持するためにも、<u>将来的な人口減、市街地の低密度化等のリスクに備えた市街地規模の最適化、拠点の更なる機能強化・魅力向上</u>が求められる。 <p>→ライカム地区は人口増加</p>

(2) 地区の課題（多目的交流施設の必要性・妥当性）

当初計画後の動向も踏まえた対象地区の特性から、地区の課題として施設の必要性及び位置の妥当性について整理する。

周辺環境の変化等から、大規模スポーツイベント等の開催が可能な多目的アリーナの必要性は低下するものの、基本的な方向性は踏襲しつつ、村民体育館をはじめとした周辺施設との役割分担や連携を図るための多目的交流施設が必要となる。

必要な要素	多目的交流施設の必要性	位置の妥当性
全体	○不足要素の解消による地区の将来像の実現が必要	○優れた <u>広域交通環境</u> ○地域の活力となる <u>拠点機能の集積</u> が計画
健康増進・ スポーツ活動	○村民が利用しやすいスポーツ活動の場が必要 ・隣接する村民体育館の機能補完 ・時代に即した軽スポーツやeスポーツへの対応	○村民体育館との連携や機能補完を図る施設の <u>用地確保</u> が可能 ○隣接する医療機関等との健康増進の <u>連携機能</u> への期待
地域の歴史・ 文化・産物	○スポーツや文化を通じた交流による地域の活性化が必要 ・盛んなスポーツ活動 ・地元チームの活躍 ・貴重な国際交流の機会創出	○地域活力となる拠点機能の集積が計画
スポーツ交流		
防災	○避難所に指定された <u>村民体育館との連携や機能補完</u> が必要 ・避難所の機能強化 ・大規模避難所の代替機能	○津波災害を受けにくい高台 ○隣接施設と連携した村の防災 <u>拠点機能強化</u> への期待

(3) 村の将来像を踏まえた本地区に求められる役割と機能

北中城村都市計画マスタープランによる本村の将来像を踏まえ、本地区に求められる役割や機能について整理する。

【都市の将来像（北中城村都市計画マスタープラン）】

基本理念

健康長寿のまちづくり ～事前予防型の都市計画～

村役場周辺やライカム地区周辺における拠点の形成や広域ネットワークの形成など、魅力あるまちづくりに向け取組を進めており、現在住んでいる村民の居住意向も高く、人口も増加傾向にあります。

今の住みよいまちを将来に渡って維持していくためには、現在抱えている課題を着実に解消していくことと並行して、将来起こり得るリスクに備えることが求められます。

そこで本計画においては、まちづくりの基本理念として「健康長寿のまちづくり～事前予防型の都市計画～」を掲げ、少子化・高齢化に伴うリスクに対し、まちが元気な内からリスクマネジメントを講じ、活力を保つ持続可能な都市を目指します。



ひと・まち 健康長寿のむら 北中城
～誰もが安全安心・快適に住み続けられるまちづくり～

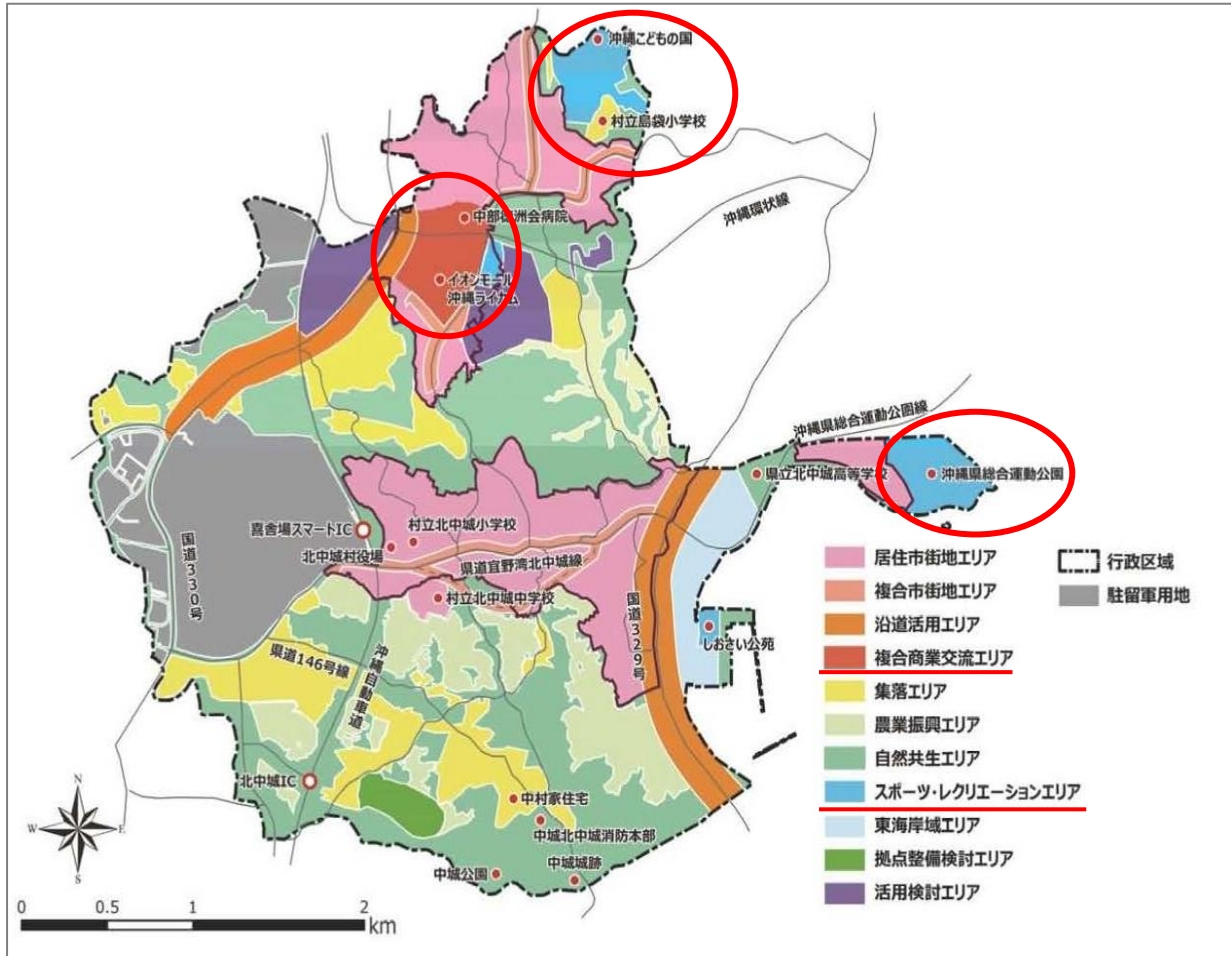
まちづくりの将来像

『北中城村第四次総合計画』では、将来像を「平和で人と緑が輝く健康長寿と文化のむら きたなかぐすく」と掲げています。

将来的な人口減少や高齢化、公共施設等都市基盤の老朽化が進むなかにおいて、これからのまちづくりにおいては、人だけでなく、まちも健康に、長生きできる、“都市の健康長寿”が求められています。

そのため、賑わいの形成や住民の生活利便性の向上に資する村の拠点における機能強化・拡充、公共交通ネットワークの確保、安全対策等を進めるとともに、都市経営の効率化に資する公共施設の長寿命化や既存市街地内における人口密度の確保を進め、誰もが安全安心・快適に住み続けられるまちづくりを目指します。

【土地利用方針図（北中城村都市計画マスタープラン）】



複合商業交流エリア：ライカム地区（イオンモール沖縄ライカム）周辺のエリア。広域的な利用を想定した交通・医療・商業・文化・福祉・観光・防災・スポーツ等の機能強化を図る。

スポーツ・レクリエーションエリア：沖縄こどもの国周辺（拡張計画地含む）、沖縄総合運動公園周辺、しおさい公苑及びライカム地区の一部のエリア。村民や周辺住民の憩いの場として機能維持・向上を図る。

当初計画では、「多目的アリーナ」の必要性が示されていたが、周辺環境が変化



都市計画マスタープラン(令和元年9月)の地域別構想では、ライカム地区の更なる機能強化に向け、周辺施設と連携しながら、スポーツ活動・健康づくり、国際交流、スポーツ・地域文化の振興や災害時の防災活動の拠点となる施設の検討が求められている。



健康寿命に寄与し、かつ、様々な交流活動や防災活動の拠点となる多目的交流施設